コトノン便り

言の葉 2026 年テーマ「コトをカタチへ」

11
2026
NO.126



言の葉の存在意義

Purpose

「リハビリテーションの力で、”その人らしさ”と”その街らしさ”を育む」

Instagram

Homepage

いつの間にか、こども達も節目の年を迎えました ～訪問看護立ち上げメンバー～

２０１６年に「コミュニケーションデイサービス言の葉」がスタートし、２０２１年には「訪問看護ステーション言の葉」、そして２０２５年には「言の葉きっず」が加わりました。私の中では、それぞれを第一、第二、第三創業期と位置づけています。

今月は、第二創業期にあたる訪問看護の立ち上げ当時を少し振り返ってみたいと思います。

「訪問看護ステーション言の葉」は、私と管理者の村井Ｎｓ、小合瀬Ｎｓの3人が中心となってスタートしました。

実はこの3人とも、前職では同じ病院（当時の湯布院厚生年金病院）に勤務していました。ただ、当時から特別親しかったわけでもなく、職場が変わってから連絡を取り合うような間柄でもありませんでした。

そんな3人が、さまざまなタイミングとご縁によって再び集まり、一緒に訪問看護を立ち上げることになりました。


小合瀬 Ns と長女

当時は3人とも子育て真っ只中。私と村井Ｎｓの長男が同学年、私の次男と小合瀬Ｎｓの長女が同学年と、こども達の世代も近く、利用者さんともこども達の話題になることがよくありました。

２０２１年のスタート当時は、まだ小学生や中学生だったこども達。そんなこども達も、今年、それぞれ大きな節目を迎えています。

小合瀬Ｎｓの長女は、５歳から新体操を始め、小学1年生から強化選手として活躍してきた新体操ガール。中学では3年連続の全国大会出場、九州大会2位という素晴らしい成績を収めました。そして来年からは親元を離れ、県外でさらなる飛躍に挑みます。

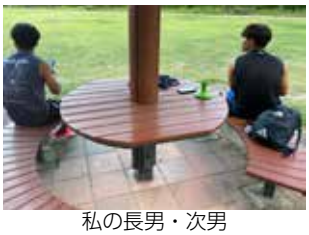

村井 Ns の長男

村井Ｎｓの長男は、中学生から続けてきた吹奏楽活動が、１２月２５日の定期演奏会（**ｉｉｃｈｉｋｏグランシアタで１８時**）で一区切りを迎えます。「言の葉きっず」の立ち上げ時には事業所の準備を手伝ってくれたり、お祭りでは誰よりも大きな声で盛り上げてくれたりしました。そんな彼も高校を卒業し、医療分野の道へと進んでいきます。

私の長男は、高校ラガーマンとして先日の国民スポーツ大会に出場し、全国2位に。今は高校生活最後の花園を目指しています。次男も、所属チームでは敗れたものの、県選抜チームの一員として九州2位となり、１２月には中学ラガーマンとして最後の大舞台に臨みます。

日頃からこども達の成長を気にかけ、応援してくださっている利用者さんたちには、本当に感謝しています。

こうして振り返ると、訪問看護を立ち上げてからの5年間という年月は、こども達にとっても、私たちにとっても、大きな変化のあった5年間だったのだと感じます。


私の長男・次男

そして、3人でスタートした訪問看護も、今では9人のスタッフになりました。それぞれに家庭があり、人生があり、日々さまざまな出来事があります。5年後には、今の9人それぞれに、また新たな節目が訪れていることでしょう。

仕事も家庭も、思い描いたとおりに進むことばかりではありません。それでも、一人ひとりが自分なりの歩みを重ね、少しずつカタチにしていく。

「コトをカタチへ」

こども達の成長を感じながら、私たちもまた、一つひとつのコトをカタチにしていきたいと思います。



中村 太一
代表取締役 言語聴覚士

コミュニケーションデイサービス

言の葉

デイサービスの活動の様子

毎年この時期は、「ときめき作品展」への出展準備で大忙しです。

一つのことに向かって皆んなで取り組む過程も仲間づくりのリハビリテーションの1つのカタチです。







プール田んぼの稲刈りも無事に終わりました。今年は今までで一番出来が良いです。土の管理、水の管理などのコツを掴んできました。試食会が楽しみです。








言の葉の誓い　Statement

2.「食と会話でつながる」

私たちは、コミュニケーションと食をテーマに、人と人のつながりを生み出します。

失語症の地域ケア活動

今年も大分県言語聴覚士協会主催の失語症者向け意思疎通支援者養成事業が始まっています。言の葉からもスタッフが運営に携わっていること、受講生の実習先となっています。

また、ご利用者さんが講座の講師として登壇することもあります。

失語症の地域ケア強化月間として啓発活動を推進していきます。

● 失語症会話サポーター講座（8月29日開催）





講義を担当する中村 ST と渡邉 ST



写真記録をする鶴岡 ST



演習をサポートする是永 ST

● 失語症者向け意思疎通支援者養成事業





講義とファシリテーションを担当する中村 ST





当事者の声を届ける工藤さん



演習を担当する渡邉 ST

● デイサービスの取材





10 月 20 日（火）に OBS の取材がありました。大分県の失語症を取り巻く状況を取材されており、言の葉の取り組みもその 1 つになりました。

言の葉の誓い　Statement

3.「人と街を信じる」

私たちは、その人の力を信じ、その街の力を信じ、リハビリテーションの視点から新しい可能性を共に開きます。

新連載

コトノンとコトハの失語症を知ろう！

第1回 失語症ってなあに？



「ことばがうまく使えなくなる障害」です





失語症とは？

脳梗塞や脳出血などの脳卒中、頭部のけがなどによって、脳のことばに関わる部分が傷つくことで起こる障害です。
それまでできていた、話す・聞く・読む・書くといったことばの働きが、うまく使えなくなる場合があります。



失語症で難しくなること ～主に4つのことばの働き～

話す 言いたいことばが出てこない。違うことばを言ってしまう。



聞く 声は聞こえていても、話の意味がわかりにくい。



読む 文字は見えていても、文章の意味がわかりにくい。



書く 書きたい文字が思い出せない。違う文字を書いてしまう。



症状や程度は、一人ひとり違います

失語症の症状は、傷ついた脳の場所や広さによって異なります。
話すのが難しい方、聞くのが難しい方、読む・書くが難しい方など、さまざまです。
見た目ではわかりにくいため、「話せるから大丈夫」と誤解されることもあります。



ことばがうまく使えなくても、伝えたい思いがあります



失語症になると、自分の気持ちや考えを周囲に伝えることが難しくなる場合があります。
しかし、ことばがうまく出てこないからといって、その人の思いや人柄がなくなるわけではありません。
相手のことばを待ち、伝えようとする思いに耳を傾けることが、コミュニケーションの第一歩です。

今月のメッセージ

「ことばがうまく出てこなくても、その人の思いや人柄がなくなるわけではありません。」

次回予告

第2回
失語症になると、どんなことに困るの？

訪問看護ステーション

言の葉



言の葉が果たす役割　Mission

全世代の人生に寄り添うリハビリテーション

「こどもから高齢者まで全世代に、生活を創造する真のリハビリテーションサービスを提供し、その人の人生を共に歩みます」



バレーをしている娘です。バレーの練習で上手くいかない日があり、その日はいつも率先しているチームへの声掛けもできずに、練習帰りの車の中で号泣。私も一緒に号泣。しかし、次の日には気持ちを切り替えて日課の自主練習をさらにパワーアップさせ2ケ月以上続けています。継続できない母からしたら何かを続けていることに感銘を受けます。野球をしている息子も、新人戦で2番サードで2打数2安打、1打点。デットボール2本背中に受けましたが涙を拭ってファーストに走っていく姿を見て感動です。次の日、ムチウチのようになっていましたが学校に行ったこともよく頑張ったと思います。





とうとう10歳の息子に将棋で負けました。
つい最近まで飛車角落ちでも勝っていたのですが、いつの間にか強くなっていました。
まだオセロでは負けません！

言の葉きっず



スタッフの最近のエピソード



2歳の息子が最近、アンパンマンにハマり、アンパンマンとバイキンマンの人形を使って戦いごっこを始めました。「アンパーンチ」と言ってバイキンマンを倒します。



1ヶ月ほど前、家に真っ白なオカメインコ（ももちゃん）を一羽お迎えし、全部で5羽（オカメ3羽、セキセイ2羽）になりました。ももちゃんは、毛引や体調不良などを繰り返していたためか、半年ほど前から売れ残っていました。ショップに行く度1羽寂しく残っている姿を見て心苦しくなり、家族で決めてお迎えしました。お迎え後も通院を頑張り、今ではみんなと一緒に元気に暮らせています！



言の葉が大切にする価値　Value

2.Professional　準備と努力を怠らない

言の葉きっず
素敵な瞬間♪

言の葉きっずの画家







誕生日ケーキ





外食体験　マクドナルドでの注文



言の葉が大切にする価値　Value

3.One Team　一致団結して前進する

Jun's Essay
No.68

感謝の反対は「当たり前」

～小さな幸せ～

前号までの７０代から「しないほうがいいこと」に関連して、もう少し紐解いてみる。

ありがとうの反対は何だろう。「どういたしまして」ではない。「ごめんなさい」でもない。私は、「当たり前」なのではないかと思う。

朝、目が覚める。顔を洗い、食事をする。今日も自分の足で歩き、誰かと話をする。そんな一つひとつのことを、私たちはいつの間にか「当たり前」だと思っている。家族がいることも、友人から連絡が来ることも、元気に出かけられることも、明日が来ることも。しかし、よく考えてみれば、当たり前のことなど、何一つないのかもしれない。

若い頃には、そんなことを考えることは少なかった。明日も元気だろう。来年も同じように暮らしているだろう。また会えるだろう。そう思うことが自然だった。ところが、歳を重ねると少しずつ見え方が変わってくる。久しぶりに会った友人と、「また会おう」と別れる。その「また」が、必ず来るとは限らない。家族と食卓を囲む。その何気ない時間も、永遠に続くわけではない。そう思うと、今まで「当たり前」だと思っていたことが、実はとてもありがたいことだったと気づかされる。「今日も元気でよかった」「会えてよかった」「話ができてよかった」そんな小さな「よかった」が、実は人生の中では大きな幸せなのかもしれない。



感謝というと、何か特別なことをしてもらった時に「ありがとう」と言うことだと思いがちだ。しかし、本当の感謝とは、特別なことではなく、当たり前だと思っていたことに気づくことなのではないだろうか。朝、目が覚めたこと。自分の足で歩けたこと。おいしく食事ができたこと。誰かと笑えたこと。今日という一日を過ごせたこと。これらは、決して当たり前ではない。

だから、７０代からは「当たり前」を少し減らしてみたい。家族がいて当たり前ではなく、家族がいてくれてありがたい。友人がいて当たり前ではなく、友人とつながっていられることがありがたい。健康でいて当たり前ではなく、今日も元気に過ごせたことがありがたい。そう思えるだけで、同じ一日でも見える景色が少し変わるような気がする。そして、「ありがとう」は、相手のためだけの言葉ではない。「ありがとう」と言える自分の心を、少し豊かにしてくれる言葉でもある。歳を重ねると、できなくなることも少しずつ増えていく。けれど、その一方で、若い頃には気づかなかったものが見えてくる。何気ない会話のありがたさ。誰かがそばにいてくれるありがたさ。何事もなく一日を終えられるありがたさ。それに気づけることも、歳を重ねることの大きな贈り物なのかもしれない。

「当たり前」と思っていた一日を、「ありがたい一日」と思って過ごす。そして、今まで「当たり前」だと思っていたことに、もう一度「ありがとう」と言ってみよう。

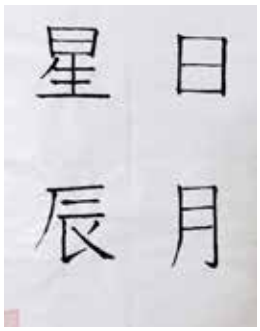


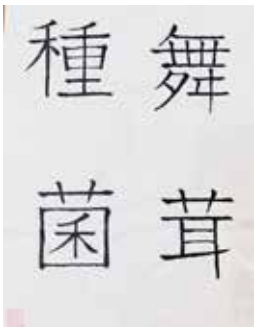
森 淳一
言語聴覚士

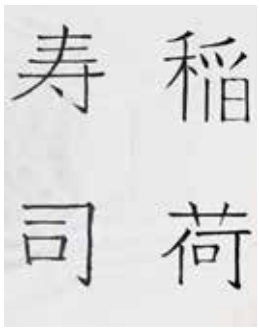
大分県の言語聴覚士の第一人者（第３代大分県言語聴覚士協会会長 H19 ～ H23）。
湯布院厚生年金病院リハ副部長、大分リハビリテーション病院リハ部長を歴任。現在も日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員、大分オーラルリハビリテーション研究会代表等を務める。趣味は音楽、パソコン、映画鑑賞、お酒などなど。

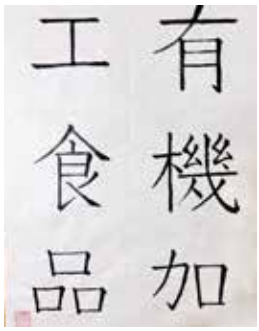
言の葉作品展

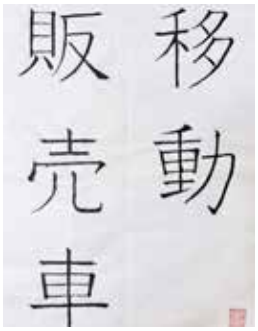


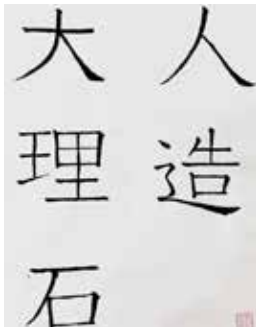
































言の葉が大切にする価値　Value

5.Challenge　挑戦の一歩を踏み出す

米米月記（衛藤農家さんのお米づくり）











今年も無事に稲刈りが終わりました。
新米をご注文いただいた方にも順次お届け中です。
毎年、美味しいお米を作ってくださる衛藤農家さん、
ありがとうございます。



言の葉間違い探し



間違い5つ見つかりましたか？
正解は、こちらから確認してね。↓